

# 平成29年度 学生市民等協働プログラム 概要

部局名 人文社会科学部

区分	内容
事業名	多角的「弘前プロモーション」の海外実践と「弘前ツーリズム」への展開調査
指導教員	①人文社会科学部 教授 今井正浩 ②人文社会科学部 講師 JANSON MICHEL ※①は、チームリーダー
学生市民等の所属及び人員 ※基金以外の者を含む	人文社会科学部 1名 教育学研究科 修士 1名 農学生命科学部 1名 一般市民 5名 現地ボランティア 1名 総務部企画課長 1名 学務部就職支援室員 1名
渡航先 (渡航期間)	フランス (平成29年9月24日～平成29年9月29日)
実施スケジュール	平成29年 7月18日～ 事前調査 " 9月24日～ フランス共和国渡航 " 9月25日 ボルドー・モンテーニュ大学訪問 " 9月26日 弘前市・弘前大学フェア開催 (同大学) " 9月27日 ボルドー市内調査・見学 " 9月29日 帰国 平成30年 1月25日～ 調査結果まとめ
プログラムの概要	<p>1. 目的： 「弘前市・弘前大学フェア」を開催し、「弘前」及び「弘前大学」の認知度向上、及び、弘前市の様々な資産（物産品、芸術、文化財等）を活用した「弘前ツーリズム」の広報活動を展開し、弘前市におけるインバウンドの増加を図る。</p> <p>2. 事業概要： 一般弘前市民と共に、現地大学生を対象としたフェアを開催。「弘前」及び「弘前大学」の認知度向上及び「弘前ツーリズム」の広報活動を展開し、インバウンドの増加を図りつつ、現地調査によるアピールポイント・対応ポイント等について、一般市民と共に多角的に分析する。</p> <p>3. 教育目標： 学生のグローバルマインドを涵養するとともに、海外における市場調査の体験と、地元「弘前」の資源を改めて見直しながら海外展開の可能性を考え、自らの企画力で最も効果的な方法を導くことにより、企業が求める「企画力・行動力があり、国際感覚を持つ社会人」としての学生を育成する</p> <p>4. 期待される成果等： ・学生及び参加市民の企画力・行動力の向上、及び国際感覚を持つ社会人の育成 ・「弘前インバウンド」に係る「欧州若年齢層のニーズ調査によるデータ取得」及び「新たな地元資源の発見」</p> <p>5. 当事業が弘前市や弘前市関連地域にあたる効果・成果等： ・一般市民の海外学習、及び弘前市の活性化（海外来客数の増加、産業振興、人材育成など） ・伝統文化を活用した観光業の活性化</p>

プログラムの様子



【写真1：三味線体験指導】



【写真2：浴衣着付け体験指導】



【写真3：こぎん刺し体験指導】



【写真4：ねぶた囃子体験指導】



【写真5：古武道体験指導】



【写真6：三味線体験指導】

今後の展望

今回の事業において明らかになったことが数点ある。第一は、日本では有名な「ねぶた祭り」と「三味線」が欧州の若者の多数が知らなかったことである。第二は、若者の多数は、「体験したい」と思っていることである。第三は、伝統文化を守っている市民は、言葉の壁を越えて指導できることである。これらのことから、海外から訪れる外国人観光客は、日本から発信される代表的な日本文化しか認知しておらず、本当は、日本文化を「見る」だけでなく、様々な日本の伝統文化を「体験したい」と強く求めていること、また、「体験したい」外国人には、「言葉」は重要ではないこともわかった。このため、世界へ発信する弘前の文化情報を工夫しつつ、本物の伝統文化を守っている多数の市民の方と、これを勉強・研究している多数の学生が協働して、海外から訪れる外国人観光客に対し「弘前の伝統文化を体験させる」体制を幅広く展開すれば、他の観光地との差別化が可能となり、「地域経済の活性化」や「伝統技術者の育成」、加えて、「世界へ発信できる地域資産」を多数得ることができると思われる。また、今回得た調査データを活用することで、弘前市が持つ多数の「祭り」に更なる付加価値を付けると共に、「桜」などを用いた新たな商品開発につながることを期待したい。